

健康保険組合と事業所間のコミュニケーションの場を広めようと始めた会社訪問の第二回目、平成三年六月十八日、大安の日に行われました。

今回は、大原に所在する上総通運株式会社へと足を運びました。大変多忙なところ、取材に貴重な時間を割いていただくことになりましたので、有意義な時間を過ごさなくてはという責任感をずっしりと肩に感じながらの取材でした。

健保組合です！

— 事業所訪問 「上総通運(株)」の巻 —

こんにちは



時計が十二時を回っても談話は盛り上がり、上総通運自体の歴史についてお聞きすることになりましたが、こうした話し合いのなかで、社長自身が社会保険に対して理解を非常に強くお持ちであると感した次第です。こうして、佐瀬社長の話術に引き込まれるうちに時間が過ぎてしまった第二回目の取材も無事終えて、私たちは帰路につきました。

佐瀬社長をはじめ取材にご協力いただいた役員の方々に、ありがとうございました。

たこと等、設立のいきさつを話され、健康保険組合の歴史の重さを感じることができました。

「社長さんは非常にお元気そうですね、何か心がけている健康法は？」と尋ねると、「今はゴルフも年だから止めているが、長編の小説を時間をかけて、楽しみながら読んでいます」とのこと。今、愛読しているのは戦争経験者が執筆した書物とか。あらずじについても言及され、当時の国民全般の思想が非常に厳しかったことがうかがわれました。

また、こうした厳しい時代を生き抜いてきた精神的な力強さが、大正・昭和・平成にわたり、何物にも代え難い「健康」を維持してこられた活カになっていっているのではと感じました。後の雑談中に、今でも戦友の方たちと交友があることを聞き、心の底に息づいている社長の思いに、心を打たれるものがありました。

さらには、シーズンになると猟をされることでした。重い装備で山を歩き回る大変さを話され、獲物は二の次で汗をかいた後の爽快感を、うれしそうに話されました。

話がここで急転し、二宮部長から、保健施設の事業のなかで家庭常備薬

▼唐鎌会長(右)と佐瀬社長



の配付、日帰りドックの実施など、健康保険組合の行っている事業について従業員の方々が喜んでいただいているお話があり、事務局としても、日ごろの努力が報われた思いでした。

また、本年十一月には健康保険組合が満五歳の誕生日を迎えるという話になると、記念誌の発刊の件で話が進展、組合設立までの経過をよくご存じの、トラック協会の下平専務に一役買ってもらってはどうかかなどの話に、花が咲きました。